

学校関係者評価報告書

令和6年6月18日

和歌山県立高等看護学院長 様

学校関係者評価委員長
氏名 杉山 文栄

和歌山県立高等看護学院学校評価規程第13条に基づき、令和5年度自己評価に対する学校関係者評価を以下の様に報告します。

学院自己評価項目	評価結果
I. 総括的評価 ① 評価基準に基づく評価結果 (9領域65項目) ② 教育実績	① 大項目の9領域中、点数が低い項目は、COVID-19の影響と8月に自己評価を実施したことで、それ以降の実績が評価外になってしまい、低くなったと考えられる。小項目で点数が低い項目については、すでに改善策が立てられており、取り組みを始めている。 ② 全国的に定員割れが多くなっている中で定員を維持できている。また、県内就業率が高く、県立の看護師養成所としての役割を果たしている。教員の研修参加数も多く、教員の学習意識が高いことが、うかがえる。
II. 重点課題評価	評価結果
《重点課題I-1》 新カリキュラム2年目の実施・評価	R4年度に新カリキュラム開始後、強化・変更した科目や教育方法について定期的な見直しが行われており、より良い学習に繋がっている。今後も、学生の声を聴きながら、より良い学習方法を検討していただきたい。
《重点課題I-2》 学生個々の強みに応じた学習支援	「強み」に焦点を当てた取り組みは、学生の反応も良く、効果的であったと評価できる。一方、実施者である教員の理解が十分でない状態がみられた。今後、教員に対して「強み」に関する学習機会をもち、理解・意思・行動変容へのアプローチが必要かと思われる。
《重点課題I-3》 活きる自己点検・自己評価システムの再構築	計画通り令和6年度に「学校関係者評価委員会」が発足できた。今後も継続していく中で、さらにより良い評価委員会になるよう、見直しを含め検討していただきたい。
《重点課題II》 専任教員ラダーの実施・評価	専任教員ラダーについては、課題を認識し、今後の取り組みを検討している。再度、ラダーの目的を全教員で共通認識し、個々のキャリア支援に繋げていただきたい。
《重点課題III-1》 ICT社会に適応できるICT教育環境の整備	令和6年度に電子教科書を導入され、「予算・セキュリティ・設備等」多くの課題があると報告があった。今後も課題をクリアしつつ、導入によるメリットも共有してほしい。さらに、DX社会に適応できるよう、環境を整備していただきたい。
《重点課題III-2》 組織としての協働体制確立	教務事務の採用で業務整理を行い、一定の業務を移譲できたが、教員の業務負担軽減の実感には繋がらなかった、と報告を受けたが、「実感」であり、業務の移譲はできていることを考えると、教務事務の採用は評価できる。今後さらに、教育に専念できる環境作り・協働体制に取り組み、より良いチーム作りに向け、取り組んでいただきたい。
《重点課題III-3》 安全・安心な環境を保证するハラスメント対策	ガイドライン、委員会規程を作成し、安全・安心な環境を提供する取り組みを評価する。対応事例0件であったが、今後も相談しやすい環境づくりを継続していただきたい。
【総括】学校運営に関して、様々な工夫がされており、全体的に教育に対する個々の教員の姿勢・意識は高いと評価できる。学院の教育を、和歌山県花(梅)をモチーフにして表現しており、どのような学生を育てたいか、ということがとても分かりやすかった。ぜひ、これらの力をつけて卒業させてほしい。また、認識されている課題をクリアできるよう、今後も取り組んでいただきたい。	

- 令和6年度学校関係者評価委員 6名
- (1) 実習病院関係者 1名
 - (2) 看護教育機関関係者 1名
 - (3) 他校種関係者 1名
 - (4) 地域住民 1名
 - (5) 所轄庁の学校教育関係者 2名